

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

## 【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	放水長が火災現場で消火活動中、屋根瓦が落下して小隊長が負傷した事例。
3. 体験した事例の中心的要素	火災現場が道路狭隘で濃煙熱気の状態、放水長は消火活動を実施してすぐ直近にいた小隊長に気づかず落下してきた瓦で後頭部及び左手背部を打撲した。
4. 体験した事例の原因・理由	火災現場が道路狭隘で濃煙熱気の状態であった

## 【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

## 【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 18年 12月 6日 午後 0時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：道路狭隘濃煙熱気状態の火災現場
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	飛来・落下ぶつにぶつかる、
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動初期、 [ 木造建物 ]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	放水活動、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

当事者A	年齢[48]歳、勤続年数[30]年、現場経験年数[30]年、階級[消防司令補]、同様の活動[1年に数度]、任務[その他：放水長]
当事者B	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動[ ]、任務[ ]
当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動[ ]、任務[ ]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	Aが	濃煙熱気火災時、放水により屋根瓦が直近にいた小隊長のところに落下して負傷させた。	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。周囲の視界が確保できなかった。

心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	はい

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

その他

l . その他の理由があった。

いいえ	
-----	--

【事故発生後の取り組みについて】



注意力欠如、焦り等の対策について

放水はむやみにしないで、自分及び周囲の安全確保が出来た時点で活動を開始する。

装備・資機材の対策について

放水活動に対応する防火服，放水に係る資機材については，問題がないと認識している。

活動環境の対策について

濃煙熱気がある火災現場で放水活動を行なう場合，危険予知が考えられる状態では次の行動を起こさない。  
安全確保ができた段階で活動を展開する。

指揮・情報伝達の対策について

現場指揮者は，安全確保の確認呼称を命じて事故防止に努める。

